

5 学年社会科学習活動報告

指導者 吉本 賢司

1 単元名 「食料生産を支える人々」 小単元「2 水産業のさかんな地域」

2 単元について

(教材観)

本単元は、学習指導要領第5学年の内容(2)の「ア 様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること。」「イ 我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色など」「ウ 食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き」に基づき設定した。

本単元では、わたしたちが毎日食べている米と水産物の生産について取り上げ、それぞれの生産者の仕事の様子や仕事をする上での工夫や努力、苦労や悩みを調べていく。小単元として取り上げる水産業については、周囲を海で囲まれた我が国では、他の国よりも消費量が多く重要な産業と言える。しかし、北方領土や200海里水域や水産資源保護などによる漁獲制限、後継者不足といった問題があり、これからの水産業について課題も多い。そのようななかでも、水産業に携わる人々が、消費者に新鮮な魚をおいしく食べてもらいたいと思い、毎日さまざまな工夫や努力をしていることに気づかせていきたい。

(児童観)

本単元は、児童にとって、毎日食べている米と水産物を取り上げ、それらの生産に関わる人々の仕事や、さまざまな問題を題材としている。米づくりも水産業も、山がちで海から遠い本地域では、児童にとって身近な題材ではない。そのため、身の回りや食生活から、さまざまなものを見つけさせたり想起させたりして、自分たちにも関わる問題として捉えさせていく必要がある。家庭で食べている米の袋やスーパーの表示などに注目させたり、加工前の魚と調理された魚を比べさせたりなど、工夫していきたい。そして、米の場合は、輸入の自由化や減反など、水産業の場合は、水産資源の減少や200海里制限など、今日的課題について、自分たちの食生活にも関わることとして捉えられるようにしていきたい。

(指導観)

本小単元の前半では、自分たちが日頃食べている水産物について、その漁獲、加工、出荷までの流れを学習し、どのような過程でわたしたちの食卓に並ぶか、特に鮮度や安全性を保った工夫や努力などを理解することを目標としている。そして、後半では、漁業に携わっている方々の抱える悩みや問題点を知り、それに向けた取り組みや今後の漁業のあり方について考える活動になる。特に、後半の活動に焦点を当て、子どもたちが水産業の抱える課題についてより理解を深めるために、これからの水産業に目を向けていかせたい。漁獲量の減少にともなう「とる漁業」から「育てる漁業」への移行について、そして「育てる漁業」のなかでも養殖漁業と栽培漁業について取り上げ、それぞれのメリットを理解した上で、どちらをより進めていけばよいかを考えさせていきたい。そのために、それぞれのメリットだけでなくデメリットにも着目できるよう、さまざまな資料を見せて、よりよい方向性を考えるための材料にしていけるようにしたい。

言語活動の充実に関わっては、自分の考えの根拠となることを、資料を読み取る中から見つけられるようにしていく。そして、読み取ったことをもとに、養殖漁業か栽培漁業かよりよい方を説明させたり、

意見交換をさせたりして、学習理解を深めていきたい。また、資料については、自分の考えを発表するときにも活用できるようにしていきたい。

3 児童の実態

社会科の学習について、以下のようなアンケートの結果が得られた。(15名、質問4以外、複数回答可とした)

1 社会科の学習で、よくできることは何ですか。

- ア たいせつなことがらを覚える 9名
- イ 資料を見て調べる 12名
- ウ 社会のことについて話し合う 8名
- エ 資料を見て自分の考えをもつ 4名

2 社会科の学習で、あまりできないことは何ですか。

- ア たいせつなことがらを覚える 2名
- イ 資料を見て調べる 2名
- ウ 社会のことについて話し合う 6名
- エ 資料を見て自分の考えをもつ 9名

「資料を見て調べる」ということについては、多くの児童がよくできると考えている。一方、「資料を見て自分の考えをもつ」ということについては、あまりできないと考える児童が多い。資料の読み取りができる点を生かし、目的を持って資料を選択し、読み取ろうとする取り組みをさせていきたい。

3 社会の学習で、どんなことを学びたいですか。

- ア いろいろな国や地域のことについて学びたい 12名
- イ いろいろな仕事の内容について学びたい 7名
- ウ いろいろな仕事の苦労や工夫を学びたい 6名
- エ 世の中のいろいろな出来事を学びたい 5名
- オ 地図やグラフなど資料の見方を学びたい 3名
- カ 社会の中に、どんな問題があるかを学びたい 5名
- キ 社会のさまざまなことがらについて、考えていきたい 4名

「いろいろな仕事」について学習したいとする意見が多く、児童の、働く人々への関心がうかがえる。小数意見ではあるが、「社会の中に、どんな問題があるか」や「社会のさまざまなことがらについて、考えていきたい」と答えた児童がいるので、その意欲を授業の中で拾えるようにしていきたい。

4 自分の考えを発表することについて、どう思いますか。

- ア よくできる 3名
- イ できる 8名
- ウ あまりできない 4名
- エ できない 0名

5 4で「あまりできない」「できない」と答えた人について、それはなぜですか。

- ア はずかしいから 1名
- イ まちがえるかもしれないから 2名
- ウ 何を話せばいいかわからないから 2名
- エ その他 0名

自分の考えを発表することについて、できると考えている児童が多い。少数であるが苦手意識をもつ児童も見られるので、自分の考えを明確にしやすいように、課題の出し方を工夫していきたい。そのため、二つの意見から選択すること、どちらが正しいではなく資料をもとにして自分の考えをもつことを重視したい。

尚、本単元の米作で、米の輸入自由化について、「米の生産量を増やすべき」か「今のままか、へらしてもよい」かで、資料をもとに話し合いを行った。「増やすべき」の意見が10名、「今のままか、」の意見が5名で、それぞれの意見を出し合った後、質疑をした。一人一人の意見を出した後、各個で質問を考えることは難しく、同意見の児童で集まって質問を考え、その後質疑を行った。話し合いの仕方にも工夫し、必要に応じて同意見の児童で話し合ったり、検討したりして受け答えるようにさせたい。

4 単元の目標と評価規準

(1) 目標

- 水産業がさかんな地域について調べ、その地域の自然条件や水産業に携わる人々の工夫や願いを捉えさせる。
- 水産業が加工や運輸などの仕事と密接に関わっていることや、費用との関係、水産資源や自然環境を守りながら漁業を進めていることに気づかせる。

(2) 評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

自分たちが食べている水産物の産地や日本の水産業について関心をもって調べ、自分たちの食生活を支えている水産業が今後どのように変わっていくとよいのかを考えようとしている。

【社会的な思考・判断・表現】

漁師の方の漁の様子から疑問に思ったことや調べたいことを考え、表現している。

水産業に携わる人々の仕事の工夫や願い、安定して水産資源を確保していくために必要なことなどについて、資料や調べたことをもとに考え、適切に表現している。

【観察・資料活用 of 技能】

水産業に関する写真や地図、統計などの資料を目的に合わせて収集・選択し、的確に読み取っている。

【社会的事象についての知識・理解】

日本の水産業がさかんな地域の様子や、水産業に携わる人々の仕事の工夫、日本の水産業の現状や安定的に漁業を進めていく養殖業や栽培漁業の取り組みについて理解している。

5 指導計画および評価計画

時	学習活動	目標	評価規準
---	------	----	------

1	<p>「魚はどこでとれるのか」</p> <p>○身近な水産物の産地を調べるとともに、主な海流と水あげが多い漁港との関係などについて考えることを通して、学習問題をつくる。</p>	<p>○自分たちの食べている水産物の名前や産地を調べ、日本の水産業について興味や関心を持ち、調べようとする意欲をもつことができるようにする。</p>	<p>○自分が食べている水産物が、どこでどのようにしてとられているのか、関心をもって調べようとしている。 【関心・意欲・態度】</p> <p>○水産業に携わる人々の工夫や努力について調べる学習問題を考え、表現している。【思考・判断・表現】</p>
2	<p>「中陳さんのさんま漁」</p> <p>○さんま漁について、イラストの読み取りをもとに調べたことを決めたあと、さまざまな資料をもとに、漁の工夫について具体的に調べる。</p>	<p>○さんまをとる仕事の様子から、水産業について調べていきたいことを話し合い、さまざまな工夫をしながらさんま漁を進めていることを調べて捉えられるようにする。</p>	<p>○さんま漁の様子から疑問に思ったことや調べたいことを考え、さんま漁の工夫や、鮮度を保ったまま運ぶための工夫について調べたことを表現している。 【思考・判断・表現】</p>
3	<p>「水産業の基地をたずねて」</p> <p>○写真や働く人の話を通して、根室港に水あげされたさんまのゆくえについて調べ、加工工場で働く人たちの工夫や努力、値段の決め方やかかる費用などについて話し合う。</p>	<p>○根室港の様子や出荷に向けての仕事調べ、さんまの出荷に携わる人々の工夫や努力、出荷にかかる費用と値段の関係について、捉えることができるようにする。</p>	<p>○さんまを新鮮なまま出荷するためのさまざまな仕事の工夫や努力、それらの作業にかかる費用、さんまの値段の決め方について理解している。 【知識・理解】</p>
4	<p>「さんまのゆくえ」</p> <p>○さんまが産地から消費地までどのように運ばれるのかをさまざまな資料をもとに調べ、運送会社の人たちの工夫や努力、輸送手段やかかる費用の違いについて考える。</p>	<p>○さんまが港から自分たちのもとに届くまでの様子を調べ、産地と消費地を結ぶ流通・輸送のはたらきについて捉えることができるようにする。</p>	<p>○さんまが消費地に届くまでには、さまざまな仕事や輸送の方法があり、それぞれの輸送手段の利点を生かして、水産物が運ばれていることを資料から読み取っている。【技能】</p>
5	<p>「世界の中の日本の漁業」</p> <p>○根室の漁業と北方領土の関係や、日本の漁業の現状についてさまざまな資料を読み取って調べ、漁業に携わる人たちの願いについて考える。</p>	<p>○北方領土と漁業の制限、水産資源の減少などについて調べ、漁業に携わる人たちの願いについて考えることができるようにする。</p>	<p>○漁業に携わる人の話などから、漁業が抱えている課題について調べたことをもとに、漁業に携わる人たちの願いについて考え、表現している。 【思考・判断・表現】</p>
6	<p>「育てる漁業にはげむ人々」</p> <p>○かんぱち養殖の仕事やえさやりの工夫について資料を通</p>	<p>○自然環境を生かしたかんぱち養殖について調べ、質がよく安心な魚を安定して育</p>	<p>○複数の資料から読み取ったことをもとに、安心な魚を安定して育てるための養殖業の工夫について捉</p>

	して調べ、養殖業に携わる人たちの願いについて話し合う。	てる養殖業の工夫や努力に気づくことができるようにする。	えている。 【知識・理解】
7	「水産資源を守る人々」 ○かんぱちの稚魚育成や栽培漁業の取り組みを調べ、水産資源を守る工夫や願いを考えるとともに、これからの水産業について話し合う。	○安定した漁業生産を目指した稚魚育成や栽培漁業の取り組みについて調べ、今後の水産業の在り方について考えることができるようにする。	○安定して水産資源を確保していくためのさまざまな取り組みについて調べたことをもとに、これからの水産業のあり方について考え、表現している。【思考・判断・表現】
次時での話し合いに向けて、資料を読み取り、これからの漁業について自分の考えをまとめる課題に各家庭で取り組む。			
8 9 本 時	『養殖漁業』か『栽培漁業』か ○「育てる漁業」のうち「養殖漁業」か「栽培漁業」か、資料をもとにして自分の考えをもち、話し合いをする。	○話し合いを通して、養殖漁業と栽培漁業への理解を深め、これからの水産業について考えることができるようにする。	○資料から読み取ったことをもとに、養殖漁業と栽培漁業のそれぞれのよさをとらえることができ、自分の考えもち、表現している。 【思考・判断・表現】

6 本時の学習

(1) 日時 平成27年8月28日(金) 5校時 14:00~14:45

(2) 場所 甲州市立神金小学校 5年教室

(3) 目標 話し合いを通して、養殖漁業と栽培漁業への理解を深め、これからの水産業について考えることができるようにする。

(4) 展開

過程	児童の活動および学習内容	教師の指導と支援	評価と備考		
(8時) つかむ 5分	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を知る。	○前時に「養殖漁業」と「栽培漁業」のそれぞれのよさを発表しているので、それを黒板に意見のカードを貼って確かめる。	・意見カード		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「養殖漁業」と「栽培漁業」について知り、これからの「育てる漁業」について考えよう。</p> </div>				
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>《予想される考え》</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>〈養殖漁業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定して水産物をとることができる。 ・いけすの中で育てるので、魚が逃げることがない。 ・魚の状態を管理しやすい。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>〈栽培漁業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の魚の数を増やし、たくさんとることができる。 ・魚が増えるので、環境にもやさしい。 ・ずっと育てるのではないので、費用があまりかからない。 </td> </tr> </table> </div>			<p>〈養殖漁業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定して水産物をとることができる。 ・いけすの中で育てるので、魚が逃げることがない。 ・魚の状態を管理しやすい。 	<p>〈栽培漁業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の魚の数を増やし、たくさんとることができる。 ・魚が増えるので、環境にもやさしい。 ・ずっと育てるのではないので、費用があまりかからない。
<p>〈養殖漁業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定して水産物をとることができる。 ・いけすの中で育てるので、魚が逃げることがない。 ・魚の状態を管理しやすい。 	<p>〈栽培漁業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の魚の数を増やし、たくさんとることができる。 ・魚が増えるので、環境にもやさしい。 ・ずっと育てるのではないので、費用があまりかからない。 				

<p>40分</p> <p>(9持)</p> <p>ふ</p> <p>か</p> <p>め</p> <p>る</p> <p>25分</p>	<p>2 相手の考えについて、聞きたいことや意見を考える。</p> <p>3 相手の意見について質問をしたり、自分たちの考えをだしたりしながら、話し合いをする。</p>	<p>○はじめに一人一人で、その後、養殖と栽培に分かれて、グループで意見交換する。</p> <p>○はじめに「養殖漁業」に対して、次に「栽培漁業」というように、順番を決めて整理して話し合いをするようにする。</p> <p>○質問や意見に対して、相手側が受け答えをする、さらに質問等があればする、というように進めていく。</p> <p>○予め、どのような質問や意見を出すか、把握しておく。</p>	<p>・ワークシート</p> <p>・児童の説明用資料</p>
<p>10分</p> <p>ま</p> <p>と</p> <p>め</p> <p>る</p> <p>10分</p>	<p>4 話し合いを通して、新たな気づき、考えが変わったこと、感想などを書く。</p> <p>5 感想を発表する。</p>	<p>《予想される考え》 〈養殖漁業に対して〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きくなるまで育てるので、お金がかかるのではないか。 ・せまいけすで、魚は大きくならないのではないか。 ・えさや魚のふんによって、いけすの中が汚れるのではないか。 ・天然の稚魚が減り、海の魚の数が減ってしまう。 ・赤潮などで、一度に多くの魚が死ぬかもしれない。 <p>〈栽培漁業に対して〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放流した魚がどこかへ行ってしまふかもしれない。 ・放流した魚をまたとることができるかどうか分からない。 ・放流した海の自然（生態系）を壊すかもしれない。 ・放流数が多く、えさが少なくなって小さい魚になってしまう。 ・同じ親から生まれた魚同士の子孫は、病気になりやすい。 <p>○考えが変わったことや、相手の考えでなるほどと思ったことなどを書かせ、これからの水産業についてどうなっていけばよいかを自分なりに考えて書かせる。</p> <p>○相手の考えを受けて、今後の水産業について自分なりに考えをもつことができた児童が発表できるようにする。</p>	<p>評話し合いを通して、養殖漁業と栽培漁業への理解を深め、これからの水産業について考えることができた。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>

--	--	--	--

(6) 評価

Aの姿	評価規準を実現した姿	Cの児童への手立て
養殖漁業と栽培漁業への理解を深め、これからの水産業について、話し合いを通して考えたことを書いている。	養殖漁業と栽培漁業への理解を深め、これからの水産業について自分の考えを書いている。	感想の書き方をワークシートに明記し、自分の考えを書けるようにする
ワークシート		

(7) 板書計画

「養殖漁業」と「栽培漁業」について知り・・・考えよう

養殖漁業	栽培漁業
考え	考え
課題	課題

活用した資料

これからの育てる漁業について

7 授業を終えて

- ・子どもたちは、養殖漁業と栽培漁業について、自分なりの考えを持ち、これからの水産業について考えを深めることができた。また、話し合いを通して考えたことについても記述することができた。
- ・養殖漁業を推進する意見が3名、栽培漁業を推進する意見が12名になり、アンバランスな人数になった。それぞれの良さがより子どもたちに明確に伝わるようにして、いろいろな意見がもてるようにしたい。
- ・2時間扱いにして、前半で意見発表と各グループでの検討、後半で話し合いという形にしたのはよかった。
- ・「質問－返答」というやりとりが多かった。もう少し話し合いが深まるような投げかけができればよかった。話し合いの後半は、少しずつではあるが、質問と意見のやりとりが続き、やや深まりも見られた。日頃から、よりこうした経験を積みさせていくことが大切だと思った。
- ・資料は、黒板に掲示した印刷物だけにしたが、実物投影機など使って、より大きく全体から見られるように工夫した方がよかった。